

第1回 前立腺がん患者さんのQOLを考える座談会の開催レポートに関する

アンケート調査結果

この座談会は、前立腺がん治療中の患者さんがQOLを保つために、患者さんと医療者との語らいやSDM（協働意思決定）を提案するバイエル薬品の取り組みの一つです。2020年はコロナ禍において疾患啓発イベントの中止やオンライン化により、前立腺がん世代の情報収集機会が減少しました。このような背景から、認定NPOキャンサーネットジャパン様に委託し、2019年11月に実施した座談会レポートを郵送で提供させていただきました。アンケートにご回答をお寄せいただきました方々へ、御礼申し上げます。

この座談会の内容は、前立腺がん情報サイトでご覧いただけます。

「自分らしく暮らすために知ってほしい 前立腺がん (<https://zenritsusengan.bayer.jp>)」



調査概要

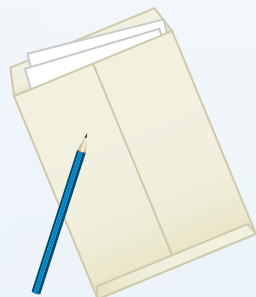
対象 | 前立腺がん患者・家族、その他 計620名（うちアンケート回収 237名）

2017～2019年開催の前立腺がんセミナー「もっと話そう前立腺がん転移のこと」へ認定NPO法人キャンサーネットジャパン（以下、CNJ）ウェブサイトから申し込んだ方のうち、CNJからの情報提供「可」かつメール連絡ができる90名および前立腺がん患者会の会員530名

方法 | 認定NPO法人CNJへの業務委託による郵送でのアンケート調査

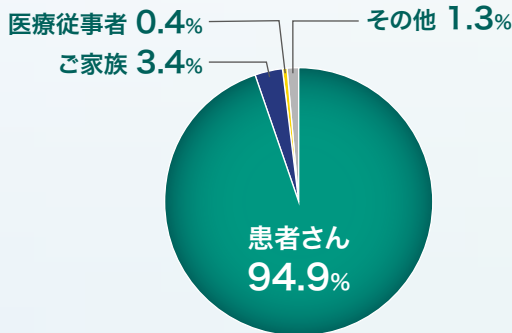
（郵送物：「第1回 前立腺がん患者さんのQOLを考える座談会」開催レポート、アンケート用紙、返信用封筒）

期間 | 2020年10月26日～2020年11月25日



アンケート回収

237名



前立腺がん患者さん

94.9%

(225名、52～88歳)



患者団体への参加

82.3%

(195名)

第1回 前立腺がん患者さんのQOLを考える座談会 の開催レポートを実際にご覧いただき、ご回答いただきました。

前立腺がん患者さん225名の集計



今までの主治医とのコミュニケーション



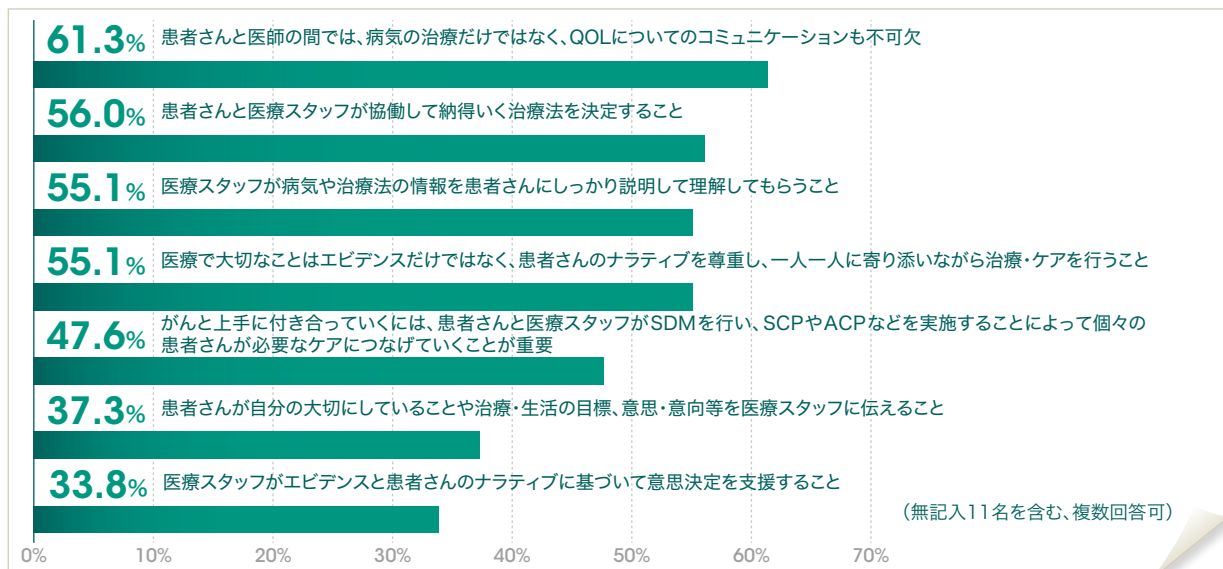
今まで、治療方針(方法)決定の際に、
ご自身が大事にしていることや希望・目標を主治医に伝えていましたか？

はい **56.4%** (127名)の方が
「希望・目標を主治医に伝えていた」と回答 (無記入9名を含む)

開催レポートをご覧になって



レポートの「Take Home Message)」のうち、
共感できるメッセージは何でしたか？



今後の主治医とのコミュニケーション



主治医との対話に向かう気持ちは変わりましたか？

前向きに
なった **72.0%** (162名)の方が、「前向きになった」と回答(とても前向きになった:33.8%、
少し前向きになった:38.2%) (無記入12名を含む)



今後、ご自身が大事にしていることや
希望・目標を主治医に伝えてみようと思うようになりましたか？

はい **83.1%** (187名)の方が「伝えてみようと思う」と回答
(強く思う:28.4%、そう思う:54.7%) (無記入9名を含む)



あなたの主治医へ伝えたいこと・聞きたいことを
診察前にまとめておく問診表があると、役立ちそうですか？

はい **88.9%** (200名)の方が
「問診票が役にすると役立つ」と回答 (無記入6名を含む)

- SDM(シェアード・ディシジョン・メイキング): 患者さんと医療スタッフが一緒に方針を決める「協働意思決定」
- SCP(サバイバーシップ・ケア・プラン): 治療法が決まった後は、手術や放射線治療で根治を目指す場合には、後遺症などその後の生活への影響を最小限にとどめることや再発抑制といったケアの計画
- ACP(アドバンス・ケア・プランニング、通称「人生会議」): 患者さんの価値観や生活の目標、病状や予後の理解などに基づき、本人や家族と医療スタッフが今後の治療や療養についてあらかじめ話し合う自発的な取り組み(プロセス)

バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<https://byl.bayer.co.jp/>